

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 山下祥代 所属: 愛媛大学大学院 記録日: 2018年2月10日

キーワード:

【対象児の情報】

- ・学年 小学6年生
- ・障害名 ◎読み書き困難, 広汎性発達障害
- ・障害と困難の内容

読みについて

- ・印字の書体や字数、大きさ、または写真やイラストの大きさによって読みやすさが異なる。
- ・用紙の色や、文字の色、コントラストの度合いによってはまぶしさを感じている。
- ・黙読のみでの内容理解は難しさがある。URAWSS(表1)では、速度はA判定、正確さがB判定。
- ・文章を読むことに苦手意識をもっており、読んでもらう方が自分にとって分かりやすいと考えている。
- ・iPadなどの機器よりも人の方が正確に読んでくれるため、家庭で長い文章を読む際には保護者に依頼して読んでもらっている。

書きについて

- ・マスや線の中に書く際には、バランスや配置に苦手意識をもっており「もっとうまく書けたらいいのに」「真っすぐ書けないから、書きたくない」と感じている。
- ・長時間の書字は「手(小指、親指の筋)が痛くなる」と話している。
- ・URAWSS(表1)では、書きの速度、正確さともにA判定。行を飛ばして書き写したり、見落とししたりすることもある。
- ・漢字や計算では書き写し間違いや、列が乱れることによるミスが多い。

表1URAWSSの結果

読み	速度	A
	正確さ	B
書き	速度	A
	正確さ	A

その他

- ・見通しのないことに不安を感じたり、どうすれば良いのか分からず困る様子がみられる。
- ・iPadなどの機器は動作にタイムラグが生じるのでイライラして、使いたくなくなると話している。

【活動目的】

ねらい

- 活動前に主訴に沿ったねらいを立て取り組んでいたが、活動を通して対象児の様子から変更をした。

<変更前:4月~6月>

- ①本人の読み、書きの困難さについて具体的に何が原因で、どのように対処することが望ましいのかを客観的データと主観的印象から明らかにする。(適切な読み、書きの補助あるいは代替法を考える)
- ②印字されたプリントの書き込みやノートの作成の補助としてiPadを活用する。

<変更後:6月~>

- ①iPad等を使用する活動を通して必要感を感じる。
- ②iPad等の補助具を自分で使うための自信を養い、活用しようとする意欲を育てる。

実施期間

2017年4月~2018年2月

実施者

山下祥代

実施者と対象児の関係

- ・活動は基本的には対象児と実施者の1対1で行っている。

【活動内容と対象児の変化】

対象児の事前の状況

- ・教科書などに見えづらさ、読みづらさ、筆記に疲れや痛みなどを訴え、読むことや書くことに拒否感をもっている。
- ・苦手さによって失敗体験を重ねたことにより、学習意欲の低下や無気力な様子が見られる。
- ・自分用の iPad を持っており、読みや書きの支援機器として使用方法を学習する機会も多くある。しかし、使用理由は周囲の勧めや介入を中心であることや、同級生の反応が気になっていることを要因として学校や家庭で自ら使用することはほとんどない。

活動の具体的内容

- ・活動は週 1 回、1 回 1 時間を基本に行った。4 月～2 月までの活動実施回数を表 2 に示した。活動時に母子同室、母子別室で行った回数についても示している。

表 2 活動実施回数(回)

回数	同室	別室
27	14	13

自身の困り感について客観的に捉えるために

- ・活動開始時は、iPad 等の補助具を使用する理由が対象児の気持ちの中でも見当たらない状態であった。疲労感や拒否感をもっているがそれらを他者に伝えることが難しい様子が見られた。

⇒他者に説明するためのキーワードを見つけ、他者に伝わる形で表現する経験をする。

活動 1 自身の困り感を確認する

- ①印字の大きさ、フォント、行間が異なる文章を見て、見えやすさについて確認する。

- ②カラーセロファンを利用して、印刷物の見えやすさについて確認する。 →結果は表3の通りである。

- ③iPad の設定を変更する。

- ・iPad の設定について変更した項目は次の 3 項目である。

文字の大きさ →最大

画面の明るさ →45%

読み上げ速度 →50%

- ・その他の設定については、変更の前後を比べてみたが「変更前の方が良い」や「変わらない」という評価のため変更していない。

表 3 書体の違いによる見えやすさ

比較	結果	補足
大きさ	12～14pt	
フォント	ゴシック体	
行間	詰めている	35 字×3 行程度
色	緑 + 黄	



[対象児の気づき]

- 教科書の文字は小さすぎて見えづらい。
- 行が狭いと見えづらいけど、広すぎてぼらぼらになっていて見えづらい。
- 白い紙はまぶしくて見えづらい。 など

活動 2 自身の困り感を他者に伝える

- ・11 月に在籍するクラスで iPad や補助具を使用する理由や、使用の用途について話をした。
- ・内容については活動 1 で実感した内容や後述する活動で取り組んでいる iPad の活用方法を取り上げている。

読み書きを支えるためのアプリや支援機器の提案

- ・事前に得られた見え方や読み書きへの印象から対象児がより自分で読むことや書くことに取り組めるようなアプリケーションをこれまでにレクチャーを受けたことがあるアプリケーションを中心に提案する。(活動 1、2)
 - ・大学では一人で使用するが他の場所では自分で使うことが少ない。
- ⇒使いたいと感じているアプリケーションに焦点を当てて活用を促す。(活動 3)

活動 1 読む際のアプリ活用

◆Office Lens

◎撮影した画像を自動で調整し、印字された画像を文字として認識するため読み上げ機能を利用する際の正確さが上がる。

◆タッチ&リード

◎選択した部分を読み上げてくれるアプリ。

・2つのアプリケーションを組み合わせることで読み上げ機能を利用している。



・印字されている教材を読む際には Office Lens で撮影した画像をタッチ&リードで読み取り、読み上げ機能を利用する。

活動 1-2 カメラ台を利用する

・4 月当初、支援なしで読み上げ機能を利用する場合は、座ったまま横から撮影することが多い。

⇒真上から撮影するほうが良いと知っているが、撮影時のスムーズな動きを考えて座ったまま撮影していると推測される。つまり、児童にとっての負担感が大きすぎたことが考えられる。このことから、カメラ台を利用しての撮影について提案を行った。

・カメラ台は下記に示す構造に工夫を加えることでより負担感を減らせるようにしている。

工夫 1

児童の iPad 専用となっており、iPad の角を合わせて置くだけでカメラ窓から下の被写体がのぞけるようになっている。

工夫 2

箱の中への入光量を調整し、蛍光灯の配置などに撮影の質を邪魔されないように底を設置する。

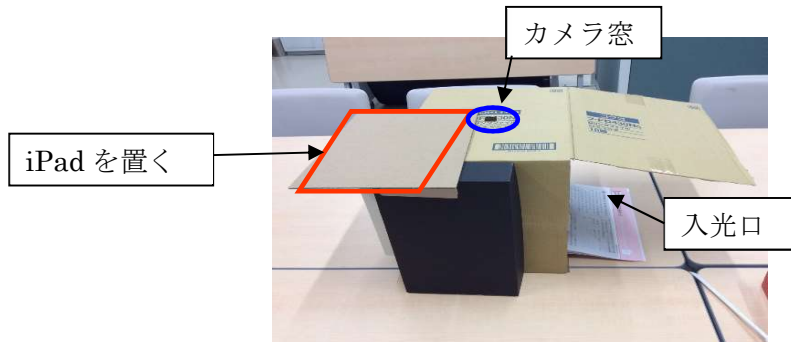
工夫 3

底の角度は撮影する場所に応じて変化させられるように、洗濯バサミで固定するだけになっている。

工夫 4

台は 2 つのパーツに分かれるようになっており、持ち運びは 1 つの箱型にすることで容易に行えるようにしている。

組み立てについても箱同士を隣り合わせるだけで行えるようにしている。



活動2 書く際のアプリ活用

◆Good Note

◎手書きの文字の書き込みや写真の取り込み、加工などが容易に行えるアプリ。

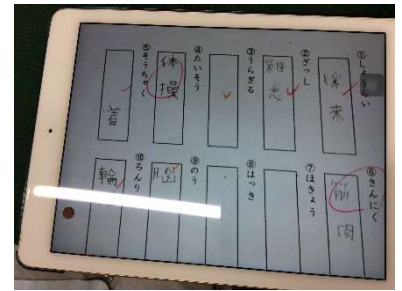
◆メモ

◎キーボードを利用した文字の書き込みが容易に行えるアプリ。



- ・夏休みに読書感想文の1～3枚目は手書き、4枚目は Good Note を用いて iPad 上で書き上げ印刷し完成させた。
- ・入力において、キーボード利用は時間がかかる、直接書き込むには、範囲を広げたり、誤作動があることが嫌だと話をしている。

⇒現在、提案している方法は児童にとって負担が大きく、また使用したいと考えられる長い文章を書く場面での利用は適切ではないことが考えられる。

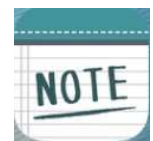


◆手書きメモ

◎所定のスペースに書きこむと自動的にノート画面に書いたままの文字を写すことができる。

・スペースは十分な広さがあり書きこむために拡大をする必要はない。

・書き込み後は自動的に作業をしてくれるため入力や読み取りの都度操作は必要ではない。



- ・対象児が感じている負担感を解消したものを提案する。
- ・家庭では、保護者と一緒に活用する機会を用意し活用している。

活動3 書きたいという気持ちを育てるためのアプリ活用

◆ロイロノート

◎自分の考えや学習のまとめなどを写真や音声などを交えて簡単に作成することができるアプリ。



- ・書く、学習の内容を整理するために利用できるのではないかと考えアプリの提案をした。
- ・社会の資料集や本の内容をフォーマットを利用してまとめることを活動として考えていたが、まとめるという作業は読むことが必要であり進まなかった。しかし自宅では夏休みに行ったオープンキャンパスの記録や自分の好きなもの、学習の内容を自分なりにまとめている。
- ・11月以降は日々の出来事や学校で学習した覚えておきたいことをまとめたりメモとして活用している。

◆Simple Mind+

- ◎トピックを作成し、その関係を接続したり色分けすることで自分の考えを整理するアプリ。
- ・操作が簡単で接続や色分けも分かりやすいため、使いやすいアプリである。



- ・情報の整理をするためにアプリを提案した。
- ・対象児の興味があるドラマの登場人物の関連図を作成した。

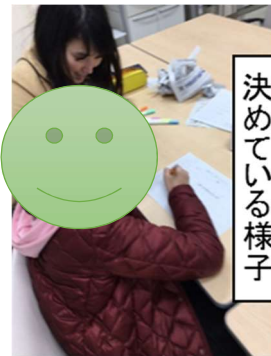


支援を「活用する」ために

活動1 活用の機会を提供

- ・9月の活動から「お家でもやってみよう」シートの活用を始めた。
- ・シートは日付、使うアプリケーション、使用の目標や目的、達成記録、感想を書きこむ形式で構成されている。
- ・シートは活動時に使うアプリケーション、使用の目標や目的を実施者と一緒に決定する。
- ・家庭では達成記録、感想を書きこんで次回の活動日に持参する方法をとっている。

⇒家庭での活用機会を増やすことに貢献している。また感想欄を設けることでアプリケーションの活用について率直な意見を知ることができ、また、使用するアプリケーションの好みを知るきっかけにもなったと考えられる。



自分で内容を
決めている様子

大学で記述

お家でも 使ってみよう!!			
日付	やること	目標	感想
	メインにマインドマップ	身体や心のつながり、Google 検索の便利	
13	アプリレビュー・ランキング	国語の教科書を読む	
14			
15			
16	お休み		
17	レポート	卒業まで、レポートで発表、発表	

使用アプリ
実施内容
(目標)

チェック
感想

家庭で記述

活動2 自分で活用するための環境調整

- ・活動を母子別室にて実施し、その日の活動内容については簡単に記述したものを渡すという形を取った。
 - ・具体的なアプリケーションの使い方については活動の中で対象児に直接説明をして実際に練習を繰り返した。
- ⇒「自分にしか使えない」状況や使い方を自分しか知らない状況を作ることで、家庭においても自分で活用する必要性を作りだすことに繋がっていると考えられる。

活動3 納得した活用に向けて

- ・活動を母子別室にて実施し、アプリや支援機器の活用について正直な感想や期待について丁寧に聞き取りを重ねた。
- ・学校の支援員と連携しクラスでの iPad の活用を支援する。クラスメートと一緒に活用する機会を設ける。
- ・支援機器やアプリを活用した活動を通して、発表や問題解決の機会を設ける。実施者やスタッフから称賛を受けたり、認められること、成功体験を積み重ねるように留意している。

⇒よりニーズに応じた活用やアプリを提案することに繋がったと考えられる。また、成功体験を重ねることで自信や実施者等とのかかわりの中で対象児オリジナルの工夫を考える意欲を生み出すことができていたと推測される。



自分なりの工夫例

対象児の事後の変化

- ・学校ではカメラ機能、電卓機能を活用して学習やテストに取り組んでいる。
- ・使ってみて良かったと感じている反面、自分で使うことにはまだ抵抗があり、いつ使ったらいいのかわからないと話している。
- ・使いやすいアプリや機能については家庭学習や他者とのかわりにおいて活用する様子が見られる。
- ・書くことの苦しさは変わらないが、書いて伝えることの楽しさを感じているようで、作成した作品の内容が相手に問かける内容であったりクイズ形式であったりと変化している。

【報告者の気づきとエビデンス】

主観的気づき

支援機器を使うためのスキルは身につけているにも関わらず、自主的な使用に繋がらない要因

- ・周囲の人が使っていないものをどうして使わなければならないのか的確に説明できる経験や知識が不足している。
- ・iPadを使わなくても「なんとかなる」環境や経験から必要性を感じていない。

そこで生活の場で自ら活用することに繋げる支援介入として以下 2 点が挙げられるのではないだろうか。

①「iPad を活用する支援の対象者」から「iPad を活用する主体者」の意識を育てる

- ・自分しか使えない状況を作り出すことで対象児が自らが活用する主体者であることに気づく機会となっていたと考える。

②より良いアプリの提供よりも、児童の願いを尊重したアプリの選択

- ・使いやすい手段で伝える活動を通して、自分の思いや願いを表現することに意欲や楽しみをもてるようになっていたのではないかと。

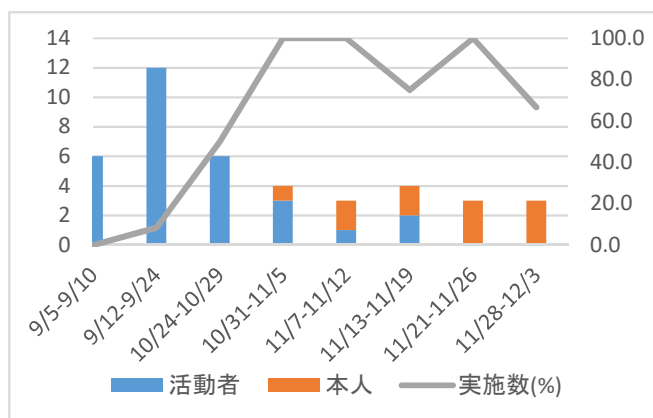
今後の課題としては、家庭や学校での活用頻度は増えつつあるが、活用が学習に繋がらない部分も多い。「どんな時に使えばいいのかわからない」という発言も見られることから、本人の興味や関心を基に学習にも活用できるように展開を検討する必要がある。

エビデンス(具体的数値など)

自主的な iPad の使用について

- ・「お家でもやってみよう」シートの内容について、対象児が決めたか、実施者が決めたかに分けて集計をした。
- ・対象児が決めることで実施した割合が高まっている。

・始めはどんな内容を決めると良いのか分からないと話すことが多かったが、回数を重ねることでどんな使い方ができるのか、回数を重ねることでスムーズに自分で考えられる



iPadを使った他者とのかわりの変化

・ロイノートの内容が変化した。

事実のまとめ→事実の要点と自分の感想→質問やクイズ

・他者に伝える活動が広がっている。